

第18回岩手日報高校書展

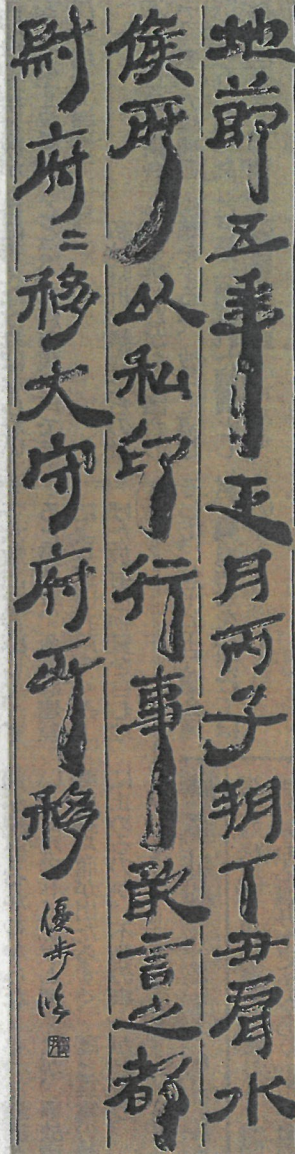
日報大賞

濃さを調節めりはり

盛岡二高3年
澁田 優歩

書道は親の勧めで、小学2年から続けてきた。高校生活最後に結果を残せてうれし。かすれを表現するために、筆や

墨の濃さを調節しめりはりををつけるよう意識した。「都」の縦角が難しかったが、一番気に入る線が書けた。書道は暮らしを彩る。小さな作品でも、ずっと書き続けていきたい。

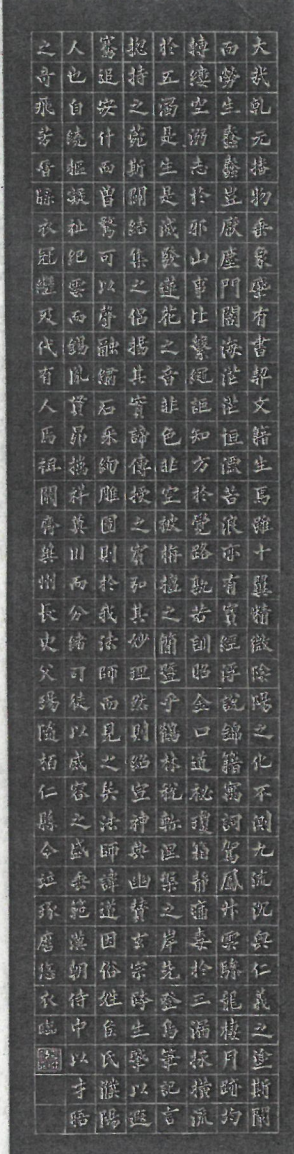


細部も全体も美しく

盛岡二高2年
熊谷 悠衣

初めて色付きの紙を使い、金の墨でインパクトある作品になった。鋭い起筆の長短に変化をつけ、ひとつひとつの字に

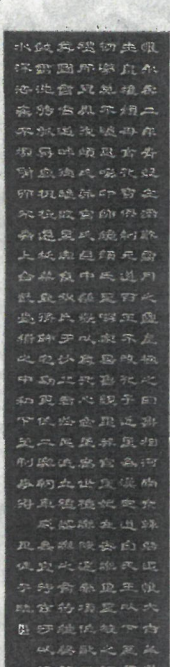
芯が通って細部も全体も美しく仕上げられた。書くことで心が落ち着き、悩みを忘れ夢中になれる。今後は篆書にも挑戦し、もっと賞を取れるように頑張りたい。



秀逸賞



盛岡二高3年 藤岡 琉宇



盛岡二高3年
大津 里佳子

(岩手日報)

この記事は岩手日報社の許諾を得て転載しています。